

(11)Publication number : 2002-215799
(43)Date of publication of application : 02.08.2002

(72)Inventor : SUGIMURA HIROYUKI

[illegible]

2006/04/03

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-215799

(P2002-215799A)

(43) 公開日 平成14年8月2日(2002.8.2)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 6 F 17/60

識別記号

1 2 6

F I

G 0 6 F 17/60

テーマコード(参考)

1 2 6 N

1 2 6 Z

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2001-7099(P2001-7099)

(22) 出願日 平成13年1月16日(2001.1.16)

(71) 出願人 300091968

株式会社アスネット

東京都新宿区新宿5丁目12番2号

(72) 発明者 杉村 浩之

東京都新宿区新宿5丁目12番2号 株式会社アスネット内

(74) 代理人 100088144

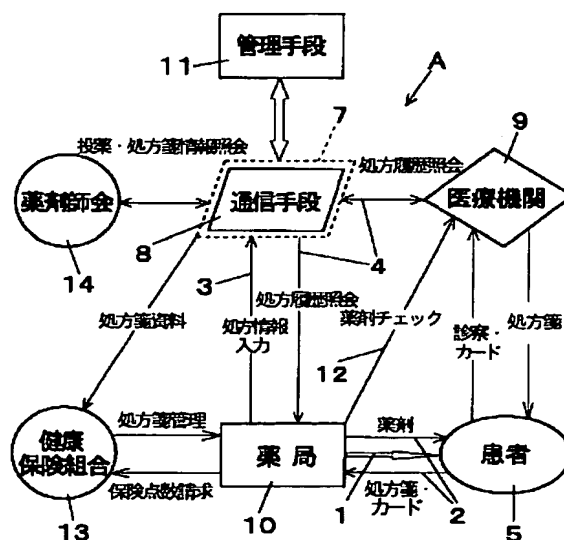
弁理士 加藤 静富 (外2名)

(54) 【発明の名称】 薬歴管理システム

(57) 【要約】

【課題】一患者の過去および現在の処方情報を簡単に把握することができると共に、重複や過剰な薬剤の処方およびそれに伴う副作用等を防止することができる薬歴管理システムを提供する。

【解決手段】一患者の固有情報を格納したカード6を個々の患者5に対して発行し、該患者がカードを医師9が発行する処方箋と共に薬局10に提出して薬剤を求めると共に、一患者ごとの処方箋の内容を通信手段8を介して、カードによる認証工程を経て管理手段11へ入力して該管理手段に蓄積させ、次回の一患者の薬剤の調剤に際して、医師および薬局において通信手段を介してカードによる認証工程を経て前記管理手段に当該一患者の処方履歴を照会させる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 一患者の固有情報を格納したカードを個々の患者に対して発行する工程と、前記患者が前記カードを医師が発行する処方箋と共に薬局に提出して薬剤を求める工程と、前記一患者ごとの処方箋の内容を、端末機と接続させた通信手段を介して、前記カードの端末機による読み取りによって認証される工程を経て管理手段へ入力し、該管理手段に蓄積させる工程と、次の一患者の薬剤の調剤に際して、医師および薬局において、前記端末機と接続させた通信手段を介して前記カードの端末機による読み取りによって認証される工程を経て、前記管理手段に当該一患者の処方履歴を照会させる工程とを備えさせたことを特徴とする薬歴管理システム。

【請求項 2】 カードは、内部ファイルがコンピュータにおける作動手段において自動再生されて、通信手段を介して管理手段に接続させることを特徴とする請求項 1 記載の薬歴管理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、一患者の過去および現在の処方情報を簡単に把握することができる薬歴管理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、けがをしったり疾病に掛かったりした人は、医療機関において医師の診察・治療を受けた後、該担当医師が処方して出された薬剤を薬局において受け取っていた。

【0003】しかしながら、医師の処方箋は、各医療機関ごと個別に発行されるもので、その患者が他の医療機関に同じけがや疾病であるいは別のけがや疾病で掛かったときも、同様に、その医療機関では、現在のけがや疾病に対する薬剤の処方がなされるもので、このように、同時期やつい最近において複数の医療機関に掛かっている場合には、その患者は異なる複数の処方箋によって調剤された薬剤を同時に服用することが起こる。

【0004】そのため、調剤された薬剤が重複して処方される無駄を生じ、患者の経済的負担が増したり、ときには、患者は知らずに服用等した異なる複数の薬剤によって相互作用等副作用を起こしたりすることがあった。

【0005】また、一部の薬局では、くすりの手帳と称して、当該薬局で出された薬剤の種類や量を記載したものを各患者ごと発行していたものが知られているが、このものは、各薬局ごと発行されるものであって、該薬局の利用者はそれらすべてを管理しなければならない上、的確な薬剤の処方を受けるためには、旅行等に際してそれらを持参しなければならない不都合があると共に、これらの手帳は、掛かった各薬局すべてで発行しているものではないため、自分の正確な薬歴を知ることはできないものであった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は前記した問題点を解決するためになされたもので、一患者の固有情報を格納したカードを個々の患者に対して発行し、該患者がカードを医師が発行する処方箋と共に薬局に提出して薬剤を求めると共に、一患者ごとの処方箋の内容を通信手段を介して、カードによる認証工程を経て管理手段へ入力して該管理手段に蓄積させ、次の一患者の薬剤の調剤に際して、医師および薬局において通信手段を介してカードによる認証工程を経て前記管理手段に当該一患者の処方履歴を照会させることにより、一患者の過去および現在の処方情報を簡単に把握することができると共に、重複や過剰な薬剤の処方およびそれに伴う副作用等を防止することができる薬歴管理システムを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】前記した目的を達成するための本発明の手段は、一患者の固有情報を格納したカードを個々の患者に対して発行する工程と、前記患者が前記カードを医師が発行する処方箋と共に薬局に提出して薬剤を求める工程と、前記一患者ごとの処方箋の内容を、端末機と接続させた通信手段を介して、前記カードの端末機による読み取りによって認証される工程を経て管理手段へ入力し、該管理手段に蓄積させる工程と、次の一患者の薬剤の調剤に際して、医師および薬局において、前記端末機と接続させた通信手段を介して前記カードの端末機による読み取りによって認証される工程を経て、前記管理手段に当該一患者の処方履歴を照会させる工程とを備えさせた薬歴管理システムにある。

【0008】また、カードは、内部ファイルがコンピュータにおける作動手段において自動再生されて、通信手段を介して管理手段に接続させる。

【0009】

【実施例】次に、この発明に関する薬歴管理システムの実施の一例を図面に基づいて説明する。図 1 において A は、薬歴管理システムの流れを示すもので、カード発行工程 1 と、薬剤を求める工程 2 と、情報蓄積工程 3 と、処方履歴の照会工程 4 とにより基本的に構成される。

【0010】そして、前記したカード発行工程 1 は、一患者 5 の固有情報を格納したカード 6 を個々の患者 5 に対して発行するもので、該カード 6 は、例えば、図 2 に示すように、一般的に市中に出回っている慣用のカード様式と略同形に形成した CD-ROM 等の所定容量を有するものを使用するもので、これらの内部に、一患者 5 の固有情報を、例えば、住所・氏名や保険証番号および後記する通信手段 8 を介して接続するインターネット等の通信網 7 への自動アクセス権を備えたファイルなど必要情報が書き込み・入力されている。

【0011】この必要情報の書き込み・入力は、薬局 10 に設置されたパソコン等のローカルコンピュータにおいて作成されたファイルを、該ローカルコンピュータに

内蔵されたCD-ROMドライブ等の書き込みおよび読み取り手段を有する作動手段（図示せず）によって行われ保存される。また、このカード6における必要情報の書き込み・入力、第三者等によって不正に改ざんされないように、防御されていることはもちろんである。

【0012】なお、前記自動アクセス権とは、例えば、医師（医療機関9）および薬局10に設置されたパソコン等のローカルコンピュータに内蔵されたCD-ROMドライブ等の作動手段（図示せず）において、該作動手段へカード6を装着してこの作動手段を起動させることで、自動的に、例えば、通信網7に構築された後記する管理手段11（ホストコンピュータ）におけるホームページへ接続し、かつ、管理手段11を使用するための所定の認証を完了させて、後記する薬剤情報の検索や入力などを行う画面を表示させる機能を指すものである。

【0013】また、通信手段8は、有線や無線等により電子情報を送受信させ得るものであって、電話回線やケーブル手段、赤外線手段あるいは光ファイバー手段等適宜なものが挙げられるもので、24時間いつでも接続が可能となる。更に、管理手段11は、通信網7を経由して端末機と接続されるコンピュータであれば任意の手段が選定し得るもので、自己のものや貸し出しのもの等が利用できる。

【0014】前記した薬剤を求める工程2は、患者5が自己のカード6と、また、医療機関9における医師が発行する処方箋と共に薬局10に提出して必要薬剤を求めるもので、この処方箋には、患者5のけがや疾病に対する治療用の薬剤が記載されている。

【0015】前記した情報蓄積工程3は、一患者ごとの処方箋の内容・情報を通信手段8を介して、カード6による前記認証工程を経て管理手段11へ入力して、該管理手段11に一患者の薬歴である処方情報を蓄積させるもので、この入力作業は薬剤を投与する薬局10において該薬局10に設置した端末機より行われる。この処方情報は、患者名およびその関連情報、薬剤の投与日、薬局名、医療機関名、けがや疾病名、薬剤の名称・数量などが薬局10に設置されたコンピュータ等の端末機におけるディスプレイ上の入力画面から入力される。

【0016】前記した処方履歴の照会工程4は、次回（二度目以降）の一患者の薬剤の調剤に際して、医師（医療機関9）および薬局10において、通信手段8を介してカード6による前記認証工程を経て管理手段11に当該一患者の処方履歴を照会させるもので、カード6により特定された管理手段11（ホストコンピュータ）におけるホームページ上の出力画面に当該患者の処方履歴が表示される。

【0017】このとき、今回の薬剤投与のための処方箋情報を入力画面からあらかじめ入力しておけば、現在のあるいは最近の投与された薬剤に対して、該薬剤の組み合わせの良否や、重複投与などのチェックが行われ、好

ましくない検索結果に対しては、ブザーを鳴らしたり、画面上において警告の点灯表示がなされて注意や必要アドバイスが行われる。

【0018】したがって、前記したように構成される本発明の一実施例の薬歴管理システムは、以下に述べる作用を奏する。けがや疾病になった患者は、所定の医療機関9において診察・診療を受ける。その上で、必要であれば医師の処方箋による薬剤が出される。この薬剤は、医療機関9内あるいは医療機関9外の薬局10において前記処方箋に基づいて出されるもので、まず、前記患者には、この薬局10において住所・氏名や保険証番号等の必要情報が格納された自己固有のカード6が作成される。（カード発行工程1）

【0019】また、同時に、該カード6内には、通信網7への自動アクセス権となる起動ファイルやURLアドレス、ホームページ上のID番号、パスワードなども入力される。このカード6は患者個人において保管され、後日の自己の診療に用いられる。

【0020】更に、この薬局10において医師による処方箋内容が管理手段11に対して登録される。すなわち、前記作成されたカード6を用いて、薬局10に設置した端末機より通信手段8、通信網7を経由して、管理手段11におけるホームページを立ち上げる。該ホームページはカード6に格納された前記自動アクセス権により、ID番号やパスワードが読み取られて、所定の認証を完了する。

【0021】すると、前記端末機のディスプレイには管理手段11の初期画面が表示されるため、この画面上において、薬歴である処方情報の入力画面か出力画面を選択する。この場合は、入力画面を選択して表示させ、各入力項目欄へ、患者名およびその関連情報、薬剤の投与日、薬局名、医療機関名、けがや疾病名、薬剤の名称・数量等を順次入力する。（情報蓄積工程3）

【0022】また、薬局10において、前記患者には、前記処方箋に基づいて必要薬剤を投与する。（薬剤を求める工程2）

【0023】そして、当該患者にあって、前記したカード6を作成した後、すなわち、次回（二度目以降）あるいは他の医療機関9でのけがや疾病の診療に際しては、このカード6を向いた医療機関9へ提出する。この診療の結果、薬剤による治療が必要なときは、医師による処方箋が作成されるものであるが、医師は、患者が持参したカード6により、医療機関9の端末機から通信手段8、通信網7を経由して、管理手段11におけるホームページを立ち上げ、処方履歴の初期画面を表示させる。

【0024】この初期画面から出力画面を選択すると、画面には当該患者の薬歴一覧が情報として表示されるものであるから、医師は、今回のけがや疾病に対して処方する治療薬が、現在あるいは最近患者が服用された薬剤との関連から、その組み合わせや重複、出薬量等を勘案

して、患者に対する最善な処方箋を作成することができる。(処方履歴の照会工程4)

【0025】患者は、この作成された処方箋と、自己のカード6とを薬局10に提出して、該薬局10から必要薬剤を求める。(薬剤を求める工程2)

該薬局10においては、患者が持参したカード6により、薬局10の端末機から通信手段8、通信網7を経由して、管理手段11におけるホームページを立ち上げ、処方履歴の初期画面を表示させる。この初期画面から入力画面を選択して、今回の処方箋による薬剤情報を入力する。(情報蓄積工程3)

【0026】そして、出力画面を表示させると、該管理手段11においては、すでに蓄積されている過去の処方履歴と、今回の薬剤投与のための処方箋情報とが自動検索・調査される。その結果、今回の薬剤の組み合わせの良否や、重複投与などのチェック表示がされ、好ましくない検索・調査結果に対しては、ブザーなどを鳴らしたり、画面上において警告の点灯表示がなされて、注意や必要アドバイスが行われる。(処方履歴の照会工程4)

【0027】そのため、薬剤の投与に際して、医師と個人(薬剤師)との二度のチェックが行われて、患者に対する良好な薬剤選択を行うことができる。また、医療機関9での事前の処方履歴を閲覧しないまま処方箋が作成された場合であっても、最終薬剤投与点である薬局10において処方履歴の照会が行われるものであるから、該薬局10からの医療機関9への適正な薬剤チェックおよびアドバイスの進言12を行うことができ、この薬剤の組み合わせの不良や、重複投与などを未然に防止することができると共に、薬剤による医療ミスを解消させることができる。

【0028】また、管理手段11には、各薬局10の投与した各薬剤の情報が集積されるため、薬剤の一元的なデータベース化が行われるので、このシステムを利用する患者は、自己が投与する薬剤の適正使用がなされ、安心して用いることができると共に、自己の健康管理も合わせて行うことができる。重複、過剰な薬剤の受給がなくなるため、自己の経済的な負担が軽減される。本システムの利用により、正確な医療費が把握でき、薬剤の適正使用により、保険財政の健全化が図れる。

【0029】医療機関9における医師は、過去の処方履歴を簡単にチェックすることができるため、処方箋の発行に際して、患者に対する的確な薬剤の選定を容易に行うことができる。

【0030】薬局10は、処方箋の薬剤チェックを、過去の処方履歴によるデータ表示により、医療機関9に対して薬剤師としての適正進言12を行うことができる。また、日々投与する薬剤の流動・流通に対して、各医療機関ごとや地域ごと等の傾向などのデータ化がなされて、将来の医療状態の向上などに寄与することができる。各薬局10ごとの薬剤の在庫が把握できて、効率的な薬剤投与を行うことができる。

【0031】診察時の保険証未携帯患者(緊急時等)に対する本人確認が容易となり、これにより、健康保険組合13に対する保険点数請求に際して障害が軽減され、医療費の支払い請求が容易となる。

【0032】また、この健康保険組合13および薬剤師会14も、設置した端末機から通信手段8、通信網7を経由して、管理手段11におけるホームページを閲覧して、処方・処方箋情報を照会することができるので、医・薬連携の推進や強化が図れる。

【0033】

【発明の効果】前述のように構成される本発明は、管理手段において、一患者の処方履歴が一元的に管理されるため、当該患者に対する薬剤の重複・過剰投与を防止することができて効率かつ廉価な薬剤の投与が行われると共に、複数のけがや疾病あるいは複数の医療機関での治療に際して投与される薬剤に対して、その組み合わせや使用の適、不適が事前チェックされ、副作用等の処方ミス未然に防止することができる特有な効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

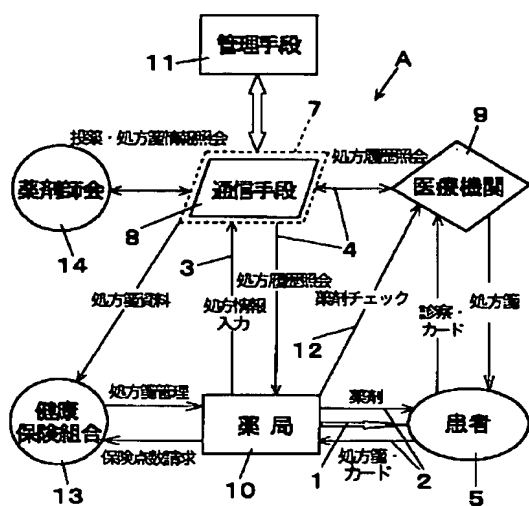
【図1】本発明の一実施例の薬歴管理システムを示すフロー図である。

【図2】図1における薬歴管理システムに使用するカードを示す斜視図である。

【符号の説明】

- | | |
|----|-----------|
| 1 | カード発行工程 |
| 2 | 薬剤を求める工程 |
| 3 | 情報蓄積工程 |
| 4 | 処方履歴の照会工程 |
| 5 | 患者 |
| 6 | カード |
| 8 | 通信手段 |
| 9 | 医師(医療機関) |
| 10 | 薬局 |
| 11 | 管理手段 |

【図1】



【図2】

